



早く一人前になれるように!

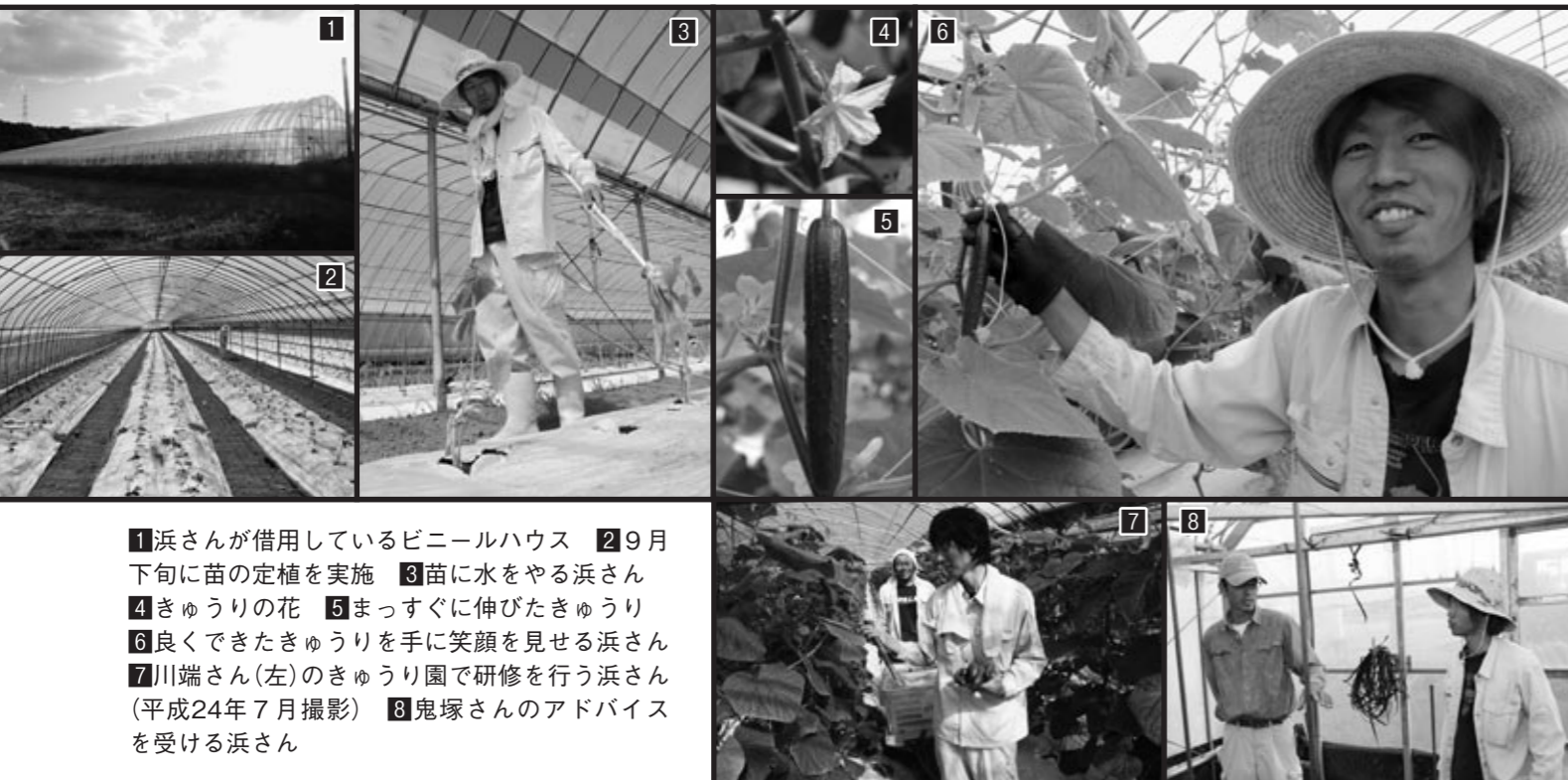
かずき
浜 一輝さん
(楠浦町・22歳)

農業とは無縁の環境で育つ
楠浦町内のビニールハウスの栽培を借りて、きゅうりの栽培をスタート。5月中旬に初めて収穫を行い、地元の農協へ出荷。現在は2作目の収穫が始まっている。
地元の工業高校を卒業後、電力関係の企業に就職するも退職し、帰郷。仕事探しをしているときに、農業研修生募集の求人票を見て応募した。「これまで農業とは無縁の環境で育ってきました。それでも、農業はおもしろいかも思えないと思ったんです」と、

浜さんは当時を振り返る。研修では、新和町できゅうり栽培を営む川端勇喜さん方で1年7カ月、きゅうりづくりのノウハウを学んだ。「ほんとうに親身になって指導をしてくださいましたし、がんばった分だけ成果が出る農業が好きになりました」と笑顔を見せる。また、研修中は自身が就農するための農地探しも実施。幸運にも、地元のビニールハウス付きの農地を借りることができた。

周囲の皆さんの支援がほんとうにありがたい

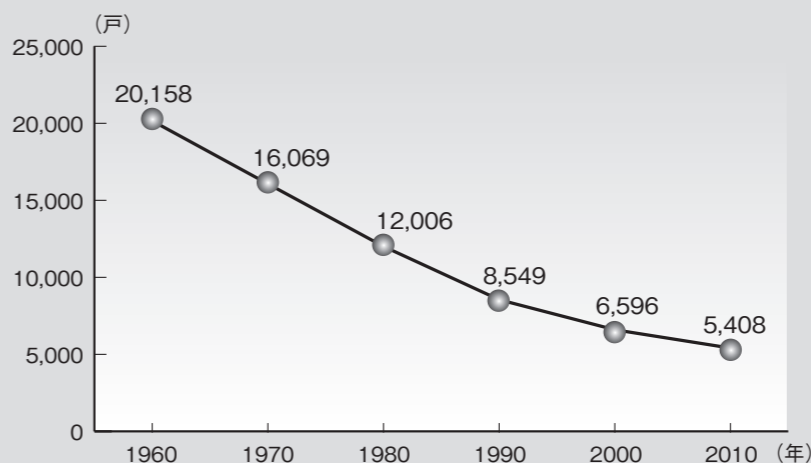
就農後は、近くできゅうり栽培をしている鬼塚猛信さんからも指導を仰いでいるという浜さん。また、市や県の営農相談員、JAのアドバイザーを受けているほか、人手が足りないときは両親も手伝いに駆けつけているという。「周囲の皆さんの支援がほんとうにありがたいです。早く一人前になれるように、がんばりたいですね」。浜さんは笑顔で話してくれた。



1 浜さんが借用しているビニールハウス 2 9月下旬に苗の定植を実施 3 苗に水をやる浜さん
4 きゅうりの花 5 まっすぐに伸びたきゅうり
6 良くできたきゅうりを手に笑顔を見せる浜さん
7 川端さん(左)のきゅうり園で研修を行う浜さん(平成24年7月撮影) 8 鬼塚さんのアドバイスを受ける浜さん

がんばる! 新規就農者!

◆農家戸数の推移



※経営耕地面積が10a以上(1985年以前は5a以上)の農業を行う世帯、または過去1年間の農産物販売金額が15万円以上(同年以前は一定額以上)の世帯数。

出典：農林業センサス

市の基幹産業のひとつである農業。高齢化や担い手の不足により、農業に携わる人たちの数は年々減少しています。グラフ1は、市内の農家戸数の推移です。50年前と比べて約4分の1になっていることがわかります。このような中、市では力強い農業を実現するため、新規就農者の確保・育成に取り組んでいます。そこで今号では、市が実施する農業研修事業などをへて、今年から農業への道を歩き始めた若き2人の新規就農者を紹介します。